

# ラボの世界

THE WORLD OF LABO

## TOPIC

オンラインで  
さまざまな交流が  
ありました。  
出会いがありました！

P4~8

- 01 10代とともに「ものごとのつながりを知ることが学びのコツ」
- 04 各種オンライン交流報告（韓国／アメリカ4Hなど）
- 09 Hello! ラボ・インターン アメリカの生活をちょっとご紹介
- 11 言語学の世界へようこそ！ -世界の英語をちょっとのぞいてみよう-
- 12 いってらっしゃい！ 第34期ラボ高校留学生
- 13 東京言語研究所 公開講座報告／各種活動報告
- 14 Go Ahead! -ラボOBOGのラボ国際交流体験ふり返り-



明るい未来に  
「いってきます」

10代とともに

# 村越 真

Murakoshi-Shin

1960年静岡県生まれ。静岡大学教育学部教授・防災総合センター副センター長。専門分野は認知心理学。ナビゲーション・リスク認知・安全教育を研究している。オリエンテーリングやマウンテンマラソンなどでみずからリスクとつきあうとともに、読図やリスクマネジメントの講習・講演などを通して研究成果を実践に還元している。主著書は『山のリスクと向き合うために』（東京新聞出版局）、『山岳読図ナビゲーション大全』（山と溪谷社）等。社会活動として、（公社）日本オリエンテーリング協会顧問、国立登山研修所専門調査委員。



「方向音痴」についての研究でも知られる心理学者の村越 真氏。氏は40年以上前に出会った「オリエンテーリング」がきっかけで「自分の位置と方向」の研究を始められ、現在のリスクマネジメントの研究へとつながっています。まさに人生を進むナビゲーションそのものの研究です。今回のお話は、「リスクをこわがるだけでなく冷静に判断し、前に進む」ためのコンパスにもなりました。

## ものごとをつながりを知ることが学びのコツ

がいい、悪い」とは？「問題がわかる、わからない」とは？ などということも研究します。

### 「わかる、正しく読む」とは？

わかるって何でしょう？ 正しく読むとは何でしょうか。さて、次の文章、なにについてのことだと思いますか？

「手続きは全く簡単である。まず、物をいくつかの山に分ける。もちろん全体量によっては一山でも良い。設備がないためにどこか他の場所に行かなければならぬとしたら、それは次の段階であり、そうでなければ、あなたの準備はかなり良く整ったことに……」

かなりわかりにくい文章ですね。あえてそうしています。さて、答えをいうと、これは洗濯の話です。そういわれると途端に理解できるのではないのでしょうか。いくつかの山に分ける……そうですね、洗濯物でも汚れがひどいものとそうでないもの、色物とそうでないものなど、種類を分けて選択したほうが良いですね。多すぎたら1回で洗濯できないからやはり分ける。経験があればこうした自分の知識を使ってさまざまな情報を結びつけなおして理解するんです。わからない場合は、知識が足りないか、知識をうまく結びつけられていないか、なんです。

さて、次の問題です。

- ①三世一身法
- ②墾田永年私財法
- ③口分田
- ④荘園の成立

これは日本の歴史の流れでいうと、どういう順番にあったことでしょうか？ はい、ちゃんとわかっている人もいますね。これはバラバラにはなかなか覚えられないですが、（以下、参加者が答えてくれた正解「③①②④」の歴史の流れを整理すると……）

③口分田は、国家の土地、つまり公地を公民が借りたものです。その代わり税を収める必要があります。「税が高い！」と逃げ出す人がいて財源が減りました。

①「開墾したら孫の代まで土地を使わせてやろう」と「三世一身法」を制定。しかしそれでもやはり逃げ出す人たちがいました。

②それならばと、「開墾したらずっと自分の土地にしてよいぞ」と「墾田永年私財法」を制定。

④「自分の土地にしていなら」と各地の権力者たちが自分の耕作地を増やし、「荘園」が生まれ、公地公民、つまり土地はすべて国家のものである、という前提が崩れました。

このように、それぞれの内容や意味がわかっていたら、つなぎあわせて連想して覚えれば良いんです。「結びつけて覚えたほうが良い」ということがわかりますね。勉強のコ

### 心理学ってなに？

ぼくは静岡大学の教育学部で心理学を研究し、教えています。大学で学ぶ「科学」を大きく分けると自然科学と人文社会科学になります。自然科学とは、自然について（物理や化学など）、人文社会科学とは、人が生み出したものについて（心理学や哲学、社会、法律など）、学び、研究するものです。ぼくの研究する心理学—心の働きの研究—には認知心理学、臨床心理学などがありますが、ぼくの専門は認知心理学です。たとえば「記憶

# 10代とともに



ツのひとつです。

## 好きなことにはのめりこんだ

ぼくは落ち着きがない子でした。いまもそうですが、これと思うとのめりこむけれどほかのことはどうでもいいタイプ。冒険は好きで小4のとき、神奈川県的地元から東京まで50分、親に黙って友だちと電車で行って、校長先生にばれて翌日に叱られました。それからもともと山が好きで地図も好きで、中2でオリエンテーリングを始めてかれこれ45年。道がないところを地図とコンパスでポイントをたどっていくスポーツです。日本選手権を15回連続優勝して、そのあと7回優勝ですから通算22回で、いまも続けています。

オリエンテーリングを後輩に教える立場になってみると疑問がわきました。自分はうまくできたけれど、できない人もいます。地図を読めない人もいます。方向音痴だと「思っている」人もいます。この違いは何だろう？と位置や方向の感覚について研究を始めました。

## 「場所細胞」が発見された

「場所細胞の研究」で2014年のノーベル医学・生理学賞をとったロンドンの研究グループがあります。脳の海馬に「場所細胞」がある、という画期的な発見でした。ある特定の場所にくると、ある特定の海馬の神経細胞が電気信号を出すとわかったのです。この場所細胞の感度が高い人とそうでない人もあるのではないかと考えられます。しかしこの場所細胞がどのようなプロセスで場所を記憶しているのかはまだわかっていません。

こうした空間を認知する仕組みがもっとわかれば、認知症の人もふくめ、道に迷うこと

への対応がわかってくる可能性があります。

## 知識や経験でも居場所や方向がわかる

ミクロネシア（フィリピンの東でオーストラリアの北にある島々）の人たちが、海図もなくGPSもないのに、何百kmも先の、標高が低くて遠くからは見えない島にたどりつけるのはなぜか、という研究がありました。

彼らは雲の有無（気温が高く、島の上には雲が湧く）や形を確認し、獲物をとりに移動する海鳥も方向決めの参考にします。島の近くで魚をとる海鳥、遠くはなれてとる海鳥、も見分ける。海鳥たちが夕方になって寝ぐらのある島に帰るときを待つんです。

それから「プランニング」といいますが、彼らは、自分たちのカヌーが海流で流されるのを見込んで、はじめから方向をそらして進むといい、ということも知っているんです。

すごいなあと思いますが、じつはみなさんもこういう目的地に向かう方向を見つめる能力をもっています。「あの店があるならあつちが駅だろう」などと考えるし、東京の渋谷駅の近くにいたときは、低いほうに行けば駅に着く。渋谷というくらいで、もともと谷底にありますからね。よく「野生の勘」といういい方をしますが、「野生」とは未開の場所の、という意味ではなく、その人が日々暮らす環境のことなのです。海に暮らす人は海、山に暮らす人は山の、都市に暮らす人は都市の、規則性をふくめた知識を使って生きています。それが「野生の勘」なのです。

## リスクとは？

約20年前から「リスクマネジメント」について研究しています。みなさんも車にぶつ

かりそうになった、落ちそうになった、などの危ない目にあつたことはあるでしょう。リスクはうまく避けないと命にかかります。

平成29年の調査によると、意外にも事故死が起こった場所としては家（庭）がいちばん多いんです。おぼれたり、落ちたりしているんです。もちろんこの事故死の背景にはたくさんの「ケガをした人」がいます。

しかしおぼれないために風呂をなくすなんてできませんね。火を使わなければ火事もやけどもないですが、使わないわけにはいきません。ほかにも、自動車がなければ自動車事故はゼロだけれどすごく不便になる。どうするか、考えないといけないんです。

## リスクの予測

さて、この絵のなかにはなにがいますか？



Photograph: Ronald C. James. 1966

はい、そうですね。頭のなかで「たぶん犬だよ」とわかったら、ここが頭で、これが足で、ここがたぶん胴体……などと見えたりするんですけど、これを「予期」「期待」といいます。頭のなかで「犬ならこうだ」と見えているものに当てはめていく。

リスクについても同じです。見てすぐわかるリスクもあれば、そうでないリスクもあります。そんなとき、これまでの経験・知識を使って予想することが必要なんです。

ぼくは「野外炊飯」の場面を見せて、「な

# 10代とともに

に危険だと思うか？」と聞く研究をしたんですが、人によって「火が危ないと思う」「転がっているナタが危ない!」「ふざけているふたりが危ない」など、予測は違うんです。

## リスクをもとめて南極へ

ぼくは2017年に南極に行って研究活動をしました。なぜなのか。もちろん冒険心もあります。人が行かないところ、過酷なところで自分を試してみたいというのがあります。それから科学者にとっては未知のもの発見があります。いま日本の観測隊がしているのは、3,000mの穴を掘ること。そこに百万年前の空気(大気)があるはずで、二酸化炭素含有率を見て気候変動もわかるんです。

でもぼくにとってはリスクについての研究がしやすいからでもあります。たとえばみなさんはいま、自動車事故にあわないように気をつけることができますと思いますが、じつはそれを生後10年以上かけて学んでいる。こ

れを10年も追いかける研究というのはたいへんむずかしい。けれども南極はリスクを学習・経験する期間が凝縮しているから短期間で研究できるんですね。

南極には落ちたら大ケガをするような場所に雪がかぶって見えなくなっている場合もあるし、氷が張った海に落ちたら低温症になって死んでしまう。ブリザード(雪あらし)がひどいときは前に出した手が見えない。このせいで遭難した隊員もいます。

じつは南極観測隊員の半分が初心者で、リスクについての知識が不十分、ということもあります。クレバス(氷と雪の地面のくぼみ……実際には割れ目)を見ても「だいたいぶそう」と思う人も「危ない!ここは進みたくない」と思う人もいます。ぼくは「リスクを避ける」にはどうするか、ということを探明していきたいと思っています。しかし、リスクに関してこういうことはいえます。

①事前に避ける～しかし最悪な例をすべて想

定するとどこにもいけず、なにもできない。②現場で判断し、避ける～リスクに気がつく力が必要。意識し、判断すること。その力を磨けば冒険がもっとできる。

①と②の使いわけをする上で「制御可能性」というリスクの性質がだいじです。その場で制御、つまりなんとかできる、と判断すれば、リスクがあっても現場に行くことができます。

コロナでも、3密、長時間での会食などを避けてマスクを着用し、リスクを避けながら行動する、ということでは同じなんです。

## 10代の若者にむけて

ウィンストン・チャーチルの"Never waste a good crisis."ということばがあります。制約のなかでできることを発見する。たとえば今日のようにリモートでやり取りすることも、コロナがきっかけです。これに限らず、さまざまな危機やチャンスを利用して前に進んでほしい、と思います。(文責 編集部)

## インタビューを終えて

[取材協力]

中山あけみP, 岩本育枝P, 松木明子P(以上、富山県) / 杉原日名子P(石川県)



### 中山あけみパーティ

●心理学が6種類に分かれていることや、オリエンテーリングのお話とはくにおもしろかったです。南極観測隊に参加したのは行動力がとてもあるなと思います、尊敬します(中野紗奈/中1)

### 岩本育枝パーティ

●自分はまだだれも発見したことのないことや、知らない場所が好きなので、南極の話は夢中になって聞きました(松本昇/中1) ●先生は中2からオリエンテーリングを始めたのがすごいなと思いました。自分も新しいことを始めてみようと思いました(北岡澤/中2) ●むずかしい話だったけどよく理解でき、有意義な時間でした。南極でも一酸化

炭素中毒があるのにびっくりしました(八田智尋/中2) ●脳の海馬が方向感覚にも関わっていると知った。もっと新しいことを知りたいと思いました(梶原大智/中2) ●オリエンテーリングは、天候にあわせて走るルートなどを変えないといけない。地図や、空、植物などまわりのものを見て走る。3時間以上の長丁場。これらができるようにになったら、スムーズでみんなが納得する話しいができてと思いました(川合天歩/中2) ●社会科は一つひとつのことを暗記するより流れとして覚えた方がいいと思いました(傍田陽介/中3) ●先生のお話を聞いて、やりたいことを研究できるのが楽しそうであらやましいと思いました。

私も将来、自分がふしぎに思うことをとことん追求できる仕事をしたいです(山本佳要/中3) ●ひとつの考えしかない、さまざまなリスクへの判断材料を少なくするのだと思いました。これからは多角的な視野をもちたいです。"Never waste a good crisis"ということばが、とても印象に残りました(北岡舞/大4)

### 松木明子パーティ

●脳に場所細胞というのがあるのをはじめて知りました。やっぱり南極は未知の場所なんだなと思いました(石田拓真/中2) ●お話はむずかしかったけど、これからの人生のヒントとなるものがたくさんありました(森唯莉/中3)

### 杉原日名子パーティ

●本格的なオリエンテーリングのことを知って、驚きました。また、脳の海馬のことはむずかしいけど、興味がわいてきました(奥田花奏/中1) ●オリエンテーリングのルールや発祥の地についてわかりました。ぼくもサッカーをしていて走るのが好きなので今度やってみたいです。あと、自分も経験したことがあったので「場所がわかる」というのは人に備った力なのかなと思いました。これから自分の知りたいことを調べて理解していきたいと感じました(隅田庸仁/中2) ●私はオリエンテーリングは登山と似ているのかなあと考えていたのですが、全然違って、とてもきつそうだなと思いまし

た。家族で登山をやっているの、今度オリエンテーリングにも挑戦したいなと思いました(田中春帆/中2) ●南極にたくさん危険があるのと同じくらい自分たちの生活にも危険があるというお話から、日々いろいろまわりを見ながら生活していこうと思いました(瀧上紗也佳/中3) ●心理学にはカウンセラーなどのイメージがあったのですが、先生が専門の認知心理学をより深く知りたいと思いました。「野性の勘」は記憶によるものだというお話もよかったです。印象的なのはなぜ南極へ行ったのかというお話で、南極の大地に集まる人を調査するという視点が斬新で驚きました(高須悠子/高1) ●1種類の細胞の発見がさまざまな可能性を秘めていることを知りとてもわくわくしました。また、私たちがふだん生活するなかで細胞の存在を感じることはほとんどないけれど細胞は確かに私たちの行動に作用しているのだと感じました(杉原史緒梨/高3) ●"Never waste a good crisis"が印象的です。明るい話題が多いわけではない現在のコロナ禍だからこそできることもあるということをお話で、前向きに考えていきたいです。あたりまえを疑って追及することで病気の治療やよりよい生活に生かせたら大きな利益になると思いました(腰原萌香/大1)

[取材日] 2021年8月

# 心を結んだ ラボ韓国青少年オンライン交流

- ・主催＝社団法人韓国ラボ
- ・日程＝6月中旬～7月31日（土）
- ・参加者＝2021年ラボ韓国青少年交流に参加を予定していたラボ会員10名

韓国ラボっ子とペンパル活動をとおして交流し、7月31日午前は韓国ラボの大学生が準備・進行したオンラインサマーキャンプに参加。午後はそれぞれペンパルの相手のお宅をバーチャル訪問しました。ペンパル活動で何度もメール交換をしたうえでのオンライン交流をみなさんすっかり楽しみました。そのうちのおふたりの感想をご紹介します。

黒田知里  
(中1／兵庫県・影山恵美P)



チョ・キュウォンさん

## <ペンパル活動について>

ペンパルは最初うまくつながらなかったけど、通じたら家族紹介とかしあって楽しかった。

## <オンラインキャンプについて>

韓国の大学生たちが作った「君の名は」や「ズートピア」のパロディ動画がとてもおもしろかった。韓国の歌と踊りのSADAは、フリはむずしかったけど楽しかった。日本のラボキャンプとはまたちがった感じで楽しかった。

## <バーチャル家庭訪問について>

日本語や韓国語で気持ちを伝えあえてうれしかった。教えてもらって作ったトッポッキがとてもおいしかったのでまた作りたい。

小松万姫  
(高2／静岡県・中村文江P)



ユ・ヨンチェさん

## <ペンパル活動について>

はじめて韓国の子とメール交換。写真や絵も使って、去年から韓国語を勉強していたので、韓国語でメッセージを送ったり、返信も韓国語でしたりしてよかったです。何度もメール交換をし、コロナが収まったら会う約束もしました。

## <オンラインキャンプについて>

韓国の大学生たちが楽しく進めてくれて、みんながどんな子たちなのか、そして韓国の文化も知ることができました。韓国語をゆっくりはっきり話してくれたので聞きとれたし、ふりを大きくしてくれたり、オンラインであることや幼い子でもわかるようにしてくれ、これからの自分のリーダー活動の参考になりました。

## <バーチャル家庭訪問について>

事前のメールのやり取りはたくさんしていたけれど少し緊張。でもすぐに楽に話せるようになり、韓国語と日本語で話しました。私の韓国語を理解してくれたのがうれしかったです。お母さんもほんとうにやさしくて料理のときもゆっくり、確認しながら教えてくれて、おいしい料理ができました。たくさん楽しく会話できてよかったです。

# 4Hオンラインプログラムいろいろ

ラボ国際交流プログラムの交流団体のひとつ、アメリカ4Hがコロナ禍においても、オンラインで積極的に国際交流活動を展開しました。ラボ会員もこれらのオンラインプログラムに多く参加しました。画面越しでも、「あっと驚く体験」「心をあたたく通わせる体験」「通じるよるこび」など、たくさんのかんごとをかんじ、かんえ、あぶことができました。どんな内容だったかをご紹介します。

## ① USA Virtual Summer Camp Session

- ・日時= 7/27, 8/3, 8/10, 8/19 9:00 ~ 10:30am
- ・参加人数= 75名 (中学生以上対象, おとなふくむ)

<プログラム>

### 7/27 Homestay Experience

4Hメンバーの家庭をバーチャル訪問。いっしょにグリルチーズサンドイッチを作ったり、楽しい実験をしたり、アメリカの家庭生活について学びました。



### 8/3 Virtual Farm Tour

アメリカの農場をバーチャル訪問して、動物の世話の仕方や、農作物の作業に使う設備を紹介してもらいました。家で牛の乳搾りの練習、バター作り、たまご料理作り、種植えなどをしました。

### 8/10 USA Holidays

毎年7月4日にある「アメリカ独立記念日」について学びました。トリビアクイズ、今年の独立記念日のようす、伝統的な食べ物や飲み物の紹介がありました。独立記念日をテーマにしたクラフトやお菓子を作りました。

### 8/19 Summer Camp Activities

ケンタッキー州の4Hキャンプをバーチャル訪問。実際の4Hサマーキャンプスタッフがキャンプソング、ダンス、キャンプのクラフトなどを紹介。毎夏の4Hキャンプで体験できることを学びました。

さまざまなプログラムを、オレゴン州、イリノイ州、テキサス州、ケンタッキー州の4Hメンバーがそれぞれ紹介してくれたおかげで、楽しい、貴重な体験となりました。

=====

## ② Bilingual Buddies

- ・日時= 7/21, 22, 23, 24 8:00 ~ 9:00am
- ・参加人数= 26名 (中学生以上対象)
- ・英語でのコミュニケーションに自信がもてるように、ロールプレイやアクティビティを通して英会話の練習。ホームステイでよくつかう英単語、フレーズ、質問の仕方などを学ぶ。

<プログラム>

### **7/21 Introductions and Overview**

このプログラムの目的やゴールの確認。30秒で自己紹介（名前、年齢、ホームタウン、趣味など）をする練習をしました。

### **7/22 Asking Questions and for Help**

英語がわからないときの質問方法など、質問の仕方について学びました。日本とアメリカのノンバーバル（ことば以外での）コミュニケーションの違いを知り、アイコンタクトを意識すること、姿勢を正すこと、声を大きく発することなどで、プレゼンテーションスキルを磨きました。

### **7/23 Sharing Your Culture**

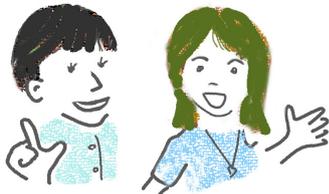
部屋のなかにある自分にとって特別なものを探して英語で紹介する練習。プレゼンテーションスキルをもう一度説明してもらいました。

### **7/24 Wrap Up!**

日本ではなにが有名なの……？ 日本文化紹介を考えたいので、自分たちでショートプレゼンテーションを作成しました。ホームステイでつかえる英語表現を学びました。

ラボ国際交流の事前活動を英語で行なっているような内容でしたので、これからホームステイに参加する人にとってもよい経験となりました。また、同年代のアメリカ4Hユースボランティア4名がサポートしてくれたことも、とてもよかったです。

=====



### **③ Global Citizen Leadership Program**

- ・日時= 7/27, 28, 29, 30 8:00 ~ 9:00am
- ・参加人数= 10名（高校生以上対象）
- ・文化、コミュニケーション、リーダーシップに関連する新しい概念について学び、英語をつかったプレゼンテーションスキルを学ぶ。

<プログラム>

### **7/27 Introductions and Overview**

参加者の自己紹介。このプログラムの目的やゴールの確認。文化について話しあいました。

### **7/28 Cross-Cultural Communication**

アメリカの文化、日本の文化についてディスカッション。

### **7/29 Leadership**

リーダーシップについて考えました。Good Leader とはなにか、リーダーの6つの種類について学びました。

### **7/30 Goal Setting and Wrap Up**

プレゼンテーションの練習。いいプレゼンテーションとはなにか、簡潔であること、見せかたなどのスキルを学びました。今回のプログラムを通して学んだことを生かして、1年間の目標を話しました。

4Hユースボランティアも参加し、アメリカの学校で学んでいるようなプログラム内容で、チャレンジングな体験となりました。

## ラボ日本語教育研修所の留学生と ラボ会員のオンライン国際交流会

春に続き、5～7月にも当プログラムを実施しました（計9回）。参加したラボのグループは9つです。千葉県・小池安奈P／神奈川県・前田祥子P／山梨県・村上美恵子P／埼玉県・野原由江P／福岡県・津野麻紀P／愛知県・巢山万紀子P、近藤裕子P／東京都・茶谷加織P／長野県・矢島まり子P

ラボ会員の参加者は留学生の出身地の文化や流行しているものなどにふれることができました。交流をした留学生のみさんの感想を、原文のままご紹介します。



### BATSUREN ENKHBAT

（エバさん：モンゴル）

私は2020年日本に来ました。オンラインでラボっ子たちと交流会する時4回参加しました。以前は、日本語学校の先生たちとアルバイトの人たちと話していました。交流会に参加する時に最初は、とても当惑して、言葉を大きい声で言えませんでした。私は紹介する時、馬頭琴を弾きました。私の趣味をととても尊敬してくれて、本当に感謝しています。終わりに私をこの交流会に参加させてくれた、ラボ学校の先生たちにありがとうございます。

### KHUDOIEVA MEHRANGEZ

（サクラさん：タジキスタン）

思い出すのは子供たちとクイズを出し合ったり、ゲームをしたりしたこと。また、自分の国の料理や服装を写真付きでみんなに見せながら紹介できたことも覚えています。そして、みんな自分が好きな物を見せて紹介した時に、私が好きな熊のぬいぐるみを見せたら、みんな笑ったのが印象に残っています。今回の留学の中ではみなさんとの交流会が楽しい思い出の一つとなりました。



### AGHAYEVA ZULEYKHA

（ズレイハさん：アゼルバイジャン）

ラボっ子の日本の文化について色々教えて頂きました。アゼルバイジャンの石油のおかげである珍しいことについてご紹介を致しました。例えば、泥火山や、燃える山や、燃える水などについてお話を致しました。燃える水について話した時、飲めるし、手でも消すことができるというと皆さん驚きました。その顔が面白かったです。日本の色々な祭りの行い方や、文化について色々詳しく教えて頂けてとても嬉しかったです。子供達を送ってくれた手紙を読んで感動しました。



### NABIZADE TUNZALA

（ザラさん：アゼルバイジャン）

ラボっ子との交流会と知り合い、ゲームをするのはとても面白かったです。私がアゼルバイジャンについて紹介した史跡、食べ物、お菓子は子供たちの興味を引きました。子供たちが星の形をしたバクラヴァを作るのは面白かったです。アゼルバイジャン料理を学びたいというラボっ子との交流会の両親の願望は私をととても幸せにしました。ラボっ子との交流会と話をするのはとても興奮しましたが、子供たちの誠実さと笑顔を見るのは素晴らしいかったです。



# 2021 ラボ国際交流 オンライン交流会

コロナ感染拡大により 2021 年のラボ国際交流が中止になり、参加できなかったラボ会員むけに、インターナショナルゲストとのオンライン交流プログラムを行ないました。参加者は、4人のインターナショナルゲストと英語をつかって交流しました。



## ◎中1対象に実施

5/25～6/2のあいだの6日間  
※各回6:45～8:00pm ひとり1回のみ参加

- ・計36名が参加
- ・インターナショナルゲストによるゲームと自己紹介後、参加者からの自己紹介
- ・日本語も交えて、お互いに質問することで交流



インターナショナルゲストが日本語も堪能であったのでゲームや自己紹介で参加者をなごませ、参加しやすい時間してくれました。参加者からの感想でも「始めは緊張していたが、インターナショナルゲストと話せてよかった」というものが多くあり、参加者同士の交流を通して「自己紹介の参考になった」という感想もありました。「来年はラボ国際交流に参加したい」という声も多数ありました。

## ◎中2～高3対象に実施

8/19～24のあいだの4日間  
※1日に2回開催（午前と午後：各回80分）ひとり1回のみ参加

- ・計46名参加
- ・インターナショナルゲストによるアイスブレイク、ゲームと自己紹介の後、英語で質問をシェアしました
- ・参加者からの自己紹介（ひとり約3分、英語でトライしました）

インターナショナルゲストとクイズや自己紹介をしながら英語で交流しました。事前にインターナショナルゲストの自己紹介動画を参加者に配信。それを参考に、国際交流のときに自己紹介で、英語で説明しながら日常生活のようすや日本文化紹介もふくめて見せられるものを準備してもらいました。

### ◆自己紹介の内容例

- ・動画もしくはパワーポイントを作成し、画面共有しながら自己紹介
- ・その場で特技の実演（楽器の演奏、野球やテニスの素振りなど）
- ・事前活動で作成していた自己紹介アルバムを使って自己紹介

インターナショナルゲストの進行でゲームやアイスブレイクから始まったおかげもあり、楽しく参加することができました。参加者はよく準備した英語の自己紹介をととても一生懸命でしたが、やり取りのときはリアクションが十分にできない場合もありました。最後にインターナショナルゲストが「チャレンジしてほしい」と話してくれ、会話をしたいという気持ちのだいじさに気づかせてくれました。

# Hello!

## ラボ・インターン

～アメリカの生活をちょっとご紹介～



*My room*

### My usual life

When I lived with my parents, I spent a lot of time in my room. I am a bit of an introvert – which means someone that enjoys spending time by myself – so I would play video games, read books, and listen to music in my room. I would also help my parents out with errands. We live near a grocery store, so I would often drive there to pick up food for my dad to cook for dinner.



*Living room*

### Middle school and high school events around August to December

In the United States, the fall is the beginning of the school year, so some of the earliest events for Middle Schoolers and High Schoolers involve welcoming the new students to the school. First Year High School Students, called Freshman (upperclassmen sometimes call them “Fresh Meat” as a joke!), and First Year Middle Schoolers, called 6th graders, usually go to school a few days early to get used to changing classrooms and using lockers – in Elementary school, the classroom is always

ラボ・インターンのジョージのアメリカでの生活を、たくさんの写真を使用しながら、紹介してもらいます。



George Arbanas  
*from Missouri*

the same, so it's a new experience for students.

### Particular events for middle schoolers

It's usually not as formal as the high school's Home Coming, but it involves going to school in the evening, where a dance is hosted. They're very fun, and it's the first time students are introduced to the idea of asking someone to go to the dance with them as a date.

There are a few other big events that happen in the fall and winter in middle school! First of all, my middle school put on a play every fall, which was always very exciting. There are also events such as the spelling bee, geography bee, and the Fall Talent show.

### About "Homecoming"

“Homecoming” is not one event, but rather a series of events all connected under the same theme. It is usually held in the fall, around Thanksgiving, and is called “homecoming” because it's an opportunity for alumni (people who have graduated from that high school), to return to the school and cheer for their football team when they visit their families for Thanksgiving.

The three major parts of Homecoming are:

#### 1) The Homecoming Pep Rally

The Homecoming Pep Rally occurs the night of or the night before the Homecoming Football game. During the Pep Rally, the community around the high school gathers with the students to get excited for the football game, and cheer on the team.



## 2) The Homecoming Football Game

The Homecoming football game is one of the most important football games in a high school's season. Usually, the high school plays against their rival high school, so it's important to play as hard as they can and win.



## 3) The Homecoming Dance

The Homecoming Dance is the big social event surrounding the Homecoming season for high school students. Students often times ask a girl or boy that



they like (or just a friend!) to the dance, and dress up in very fancy suits and dresses.

At the dance, the Homecoming King and Queen are crowned. The candidates are nominated by members of each grade (called a class), and are then voted on

by the entire school. The winners are presented crowns, and are celebrated as kings and queens!

### Special events for "Halloween" at school

At my school, everyone would dress up in costumes and go to school like that! I was known for making costumes that involved some sort of wordplay.



## Thanks Giving Day

Thanksgiving is a traditional American Holiday that happens on a Thursday in November. Because it's a national holiday, often times schools and workplaces have a "Thanksgiving Break" which starts on Wednesday and ends on Friday.

The holiday of Thanksgiving is about being thankful for your life, and the people around you. It's very important for families to gather together and all celebrate that gratitude together. My family usually invites my Aunts, Uncles, Grandparents, and Cousins to our house for a big lunch.



Thanksgiving also has traditional foods! Turkey, Mashed Potatoes, Green Bean Casserole, and Pumpkin and Apple Pie for dessert are all very popular.

## Christmas

Christmas is not a national holiday, but because most Americans are Christian, most schools plan their winter breaks to align with Christmas.

My family is Orthodox Christian. Christmas is a religious holiday, so we go to church on Christmas Eve to celebrate the birth of Jesus. Afterwards, because it's late, we have a family tradition of going to an Indian Restaurant for dinner.



*Christmas Eve Indian Food*

On Christmas morning, we go to church again! Afterwards we do the normal American thing of opening Christmas presents and having Christmas Dinner. Christmas Dinner is another traditional meal usually done with family, but the traditional food is Ham, not Turkey. Of course, we also buy a Christmas Tree! My family also really likes the the singer Michael Bubl's Christmas album too, so I recommend that you give it a listen!



## 東京言語研究所レポート 言語学の世界へようこそ！

## 世界の英語を ちよつと のぞいてみよう



嶋田珠巳（しまだ・たまみ）

明海大学外国語学部教授。言語学（社会言語学，言語接触，アイルランド英語）。2007年京都大学大学院文学研究科 行動文化学専攻 言語学専修博士後期課程修了。博士（文学）。著書に、『英語という選択—アイルランドの今』（岩波書店），共編著に『言語接触—英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』（東京大学出版会），『時間と言語』（三省堂）など。

### ◎世界の英語のさまざま

世界で英語を話している人はどれくらいいると思いますか。最近はスマートフォンでもそれらしい数字を出してくれます。世界人口が73億人の頃に英語話者は15億人だそうですから，世界人口が78億のいまではその数はもっとふくらんでいるかもしれません。英語を母語（すなわち，しぜんに身につけた自分にとっていちばん楽に話せる言語）として話す人は英語話者のうちの4分の1といわれています。英語はいまや，第二言語として用いる人，さらには日本の多くの人があるように外国語として学ぶ人の数が多いわけです。

英語の機能する範囲はますますひろがって世界のさまざまな国と地域において浸透し，Englishを-esのついた複数形にして，World Englishes（世界諸英語）ということばで表わすほどに，地域文化に根づいたさまざまな英語も育っています。

まさにそのWorld Englishesの学会でインドを訪れたことがあるのですが，「インドでは英語が第2言語である」という本の記述から想像してしまう，私たちが学ぶのと同じような英語を国民のほとんどが2番目の言語として話している，というのとは事情が違っていました。インドに住む人全員に英語が通じるわけでもなければ，インドで話されている英語が私たちの学ぶ英語あるいはイギリスの英語と同じように耳に響くわけではないのです。

### ◎まちがった英語？

ここにあげる3つの文は，世界の異なる場所で話されている英語です。

- (1) We're after missing the bus!
- (2) They were knowing the names.
- (3) Bruce be running.

(1)はアイルランド英語の例。目の前でバスが行ってしまったときにいっしょにいた人がいった文で，「バスを逃してしまった！」の意味を表わします。アイルランド英語には標準英語にはないbe after V-ingのかたちがあって，「～したところだ／～を終えたばかりだ」という完了の状態を表わすことができます。Afterの後に名詞句をとることもでき，"I am after my lunch." といえは「昼食を食べましたよ」という意味になります。

(2)はインド英語の例で，「彼らはその名前を知っていた」の意味です。標準的な英語で「彼をよく知っている」といえば，"I know him well." で進行形にはしませんが，世界の英語には状態を表わすときにbe動詞を伴うものがあります。

(3)はアフリカ系アメリカ英語の例です。アメリカ英語といっても，学校文法のモデルになっている標準英語ばかりではないことに気づきます。"Bruce be running." はbe動詞のまちがいではなく，「ブルースはいつも走っている」という習慣を表わす，be + V-ingのかたちです。この言語では，Bruce be running.のかたちで，Bruce runs.（ブルースは走る）やBruce running.（ブルースはいま走っている）とは異なる意味を表わせるのです。

(1)～(3)の文は，私たちが学校で習う英語ではまちがったことになってしまいます（英作文でみんなは書かないように）。それでも，実際にこのような表現が世界の英語には存在し，それぞれの言語の文法のもとにきちんと機能を果たしているのです。ここからが言語学のおもしろいところですが……このへんで。

### ◎アイルランドは英語圏？

さきほど紹介の(1)の特徴をもつアイルランド英語は私が中心的に研究してきた言語です。大学生のときの留学がアイルランド共和国だったというご縁なので

すが、そのときはたんに「英語圏への留学」としか思っ  
ていませんでした。たしかに今日のアイルランドで日  
常的に話されている言語は「英語」ですから英語圏に  
は違いないのですが、そう単純に割りきれない部分  
もあります。アイルランドの人々は英語を「自分たち  
のことば」だとは考えていません。「自分たちのこと  
ば」と呼ぶのはアイルランド語だけです。ここには言  
語交替を経験したという事情があります。土地に根づ  
いたアイルランド語があったのに、おもに植民地支配  
によって英語に取りかわってしまったのです。およそ  
100年前までにアイルランド語は衰退し、多くの地域  
では日常的に話されることばが英語になりました。

言語交替は、英語が「貧しさから逃れるための重要  
な手段」、さらには「社会的な成功のための手段」と  
なり、親が自分の子どもに自分の母語であり民族語で  
あるアイルランド語をわが子にむけて話すことをやめ  
てしまった、その集合的な結果です。現在は、国語と

して、また自分たちのアイデンティティを表わすもの  
として、アイルランド語を保持し、英語との二言語使  
用のもとに継承しようと取りくんでいます。

「英語を話す国」とひとことでいっても、その英語  
はさまざま、言語環境もさまざまです。これを読んで  
いるみなさんのなかに英語をむずかしく感じている人  
がいたら、こんなふうに思ってみてはいかがでしょうか。  
英語も言語。あなたの毎日のことばの使用と同じよう  
に、それを話す話者がいて、コミュニティがあって、  
ことばを介したコミュニケーションが日々行なわれて  
いる。ことばを知ることはその世界に足を踏み入れる  
ことなのです。



アイルランド語と  
英語の道路標識

## いってらっしゃい！ 第34期ラボ高校留学生

第34期ラボ高校留学生22名が、アメリカ、カナダに出発しました。感染症の影響で第32期留学生は途中  
帰国、第33期は中止となったため、2年ぶりの高校留学出発となりました。

例年、ゴールデンウィーク中に開催されていた準備合宿はオンラインで開催。これまでと違い、「COVID-19  
に関する検査証明書」の取得、さまざまな事前登録の手続きがあり、到着後に現地で行なわれる研修もオンラ  
インで出発前に実施。受入れ団体もホストファミリーも、コロナに関する情報の開示や手順についてとくに気  
をつけて留学生たちを受け入れてくれました。留学生たちは一定の隔離期間を経て、高校生活を始めました。



## 東京言語研究所 公開講座 報告

オンライン公開講座を実施。2つの講座あわせて150名もの受講者が参加しました。

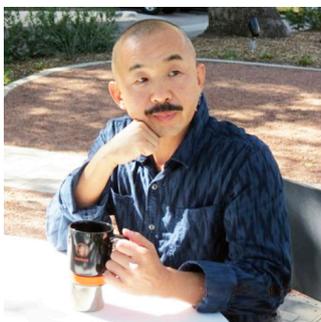


### 6月5日(土)「対面とことばによるコミュニケーション」

講師：山極壽一氏（京都大学前総長，総合地球環境学研究所長）

<講義内容>

ことばをもたないゴリラは相手の顔をのぞきこむ対面交渉をよくする。一方、人間は対面しながら距離を置く。この違いはことばをしゃべることとともに、目の動きを通して相手の気持ちを探ることにある。それは、人類がゴリラ以上に共感力を高める必要があったからである。それがいま、新型コロナウイルスによる感染症の拡大によって危機に瀕している。新しい暮らしの方法，すなわち新しい社交をデザインしなければならない。



### 7月4日(日)「潜在認知の現代～情報テクノロジーと認知バイアス」

講師：下條信輔氏（カリフォルニア工科大学）

<講義内容>

認知バイアスとは、自分の思いこみや周囲の環境により、非合理的な判断をしてしまうことである。原発事故が起こった際の判断，また現在のコロナ禍でなされているさまざまな判断にも認知バイアスが影響していることが多い。盲目的な誤った判断をしないよう，社会システムが正しい方向に導いていかねばならないが，現状はそのようになっていないと考える。

## 各種活動報告

### <4H ペンパルプログラムの報告> (2～5月実施)

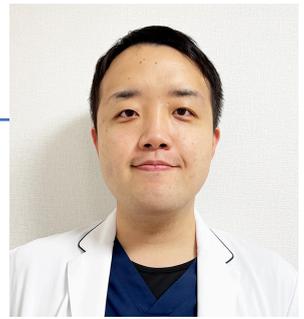
ラボとの国際交流団体のひとつのアメリカ4Hが，交流をしている各国団体を対象に，ペンパルプログラムを実施し，ラボ会員も280名以上が参加。おおむね何度かのメール交換ができ，「互いに同じようなことが好きで話が盛りあがった」「毎回長い文章を書いてくれた」「受けとった英文を親子やラボの仲間と一生懸命訳した」という事例もありました。

### <2021 Online NIHONGO Program> (6月実施)

"Learn Japanese and experience daily life in Japan, online!" ということで，ラボ日本語教育研修所の講師が先生となり，2020年，2021年日本語プログラムで来日を予定していたアメリカ4H会員が参加。3回の授業を通して日本語で自己紹介ができるようにし，4回目の授業では，実際に日本人大学生に自己紹介を披露し交流する，というものでした。アメリカから参加した受講者は「終わるのがさびしい」というくらい，楽しみました。協力してくれた大学生ラボ会員も「楽しかった」「ひさしぶりに国際交流しました」との感想もありました。

### <アメリカ4Hの「世界の文化を学ぶプログラム」にラボ・パーティが登場> (6/26実施)

アメリカ4Hが9～18歳の米国青少年むけの，世界6か国を紹介する6つのバーチャルプログラム「Global Exploration Series」を開催。日本についてのイベントはそのうちのひとつで，日本の夏祭りを中心に日本文化の紹介をしました。当日は三井麻実ラボ・チューターとラボ会員（東京都・三井麻実P）が，アメリカ参加者に教えながらいっしょにお好み焼きを作り，浴衣を着て炭坑節を踊り，折り紙でランタン作りなどをして楽しみました。



松下 祐  
精神科医師

## 違いのなかの同じところ

私は小1から高校卒業までラボ活動をし、ラボ国際交流には中1で参加しました。行き先はカナダのニューファンドランド島で、とても自然が美しく、その景色はいまでも記憶にあります。

ホストの家ものどかな場所で、木に吊したブランコやキャンピングカーなどがあり、まるで絵本で見る家のように「いままでと違う環境で過ごすのだ」ということを強く感じました。

ホストとはふだん家ではゲームなどをしましたが、日本でも見るゲームがいくつかありました。ことばや住む環境



はまるで違うのに自分と同じように遊んでいるということに驚きました。しかし自分の英語のつたなさもあり、会話がなか

なはずまず、ホストたちと距離や違いを感じてしまっていました。

ある日、ホストと近所の友だちとで家の外でかくれんぼをしている最中に、誤って溝にはまり、足首を痛めてしまいました。ホストは私のことを心配してくれましたが、「自分のせいで遊びはお開きになっちゃうかな」と思ってしまいました。しかし彼は「続きは家で遊ぼう」という私を引っぱってくれました。その姿はとても頼もしく、ほんとうの兄のように身近に感じました。勝手に感じていた距離が埋まったようで、だんだんと話も多くなるようになりました。

すると、それまでホストの「自分と違う面」ばかり感じていたのが、「自分と似ている面や同じところ」にも目がいき、親近感をもってふれあえるようになり、その後は楽しくホームステイを終えることができました。

私は現在、精神科医として働いておりますが、いろいろな人たちがそれぞれの悩みを抱えて訪れます。お話を聞

き、その方の世界にふれ、寄りそい、解決へとお手伝いをしていくのが私の仕事です。まったく同じお話をする人はひとりもおらず、みんな違います。しかし、国からしてすでに違うはずのホストもそうだったように、だれにも共通する「同じところ」があるはずなのです。その方に歩み寄り、「同じところ」を見つけることで、「こういう例もありますよ」というアドバイスもできるし、よりその方の側に立ったかたちでお手伝いができます。

「違い」に歩みよって「同じところ」を見つけ、寄りそう。このホームステイでの経験は、いまの自分の仕事にそのまま生きていると思っています。私はこれからも、相談に訪れる人たちに少しでも寄りそいながら、役に立つことができるよう、がんばっていきたいと思います。

まつした・ゆう＝精神科医師  
(秋田県・田尻裕子パーティOB)

## Information

### 国際友好親善事業

ウェブサイト [www.labo-intlexchange.or.jp/](http://www.labo-intlexchange.or.jp/)

■第35期高校留学一次選考会  
10月から順次開催（※緊急事態宣言の延長を受け9月開催を延期していました）

■理事会：9月17日（金）

■評議員会：9月24日（金）

### 東京言語研究所

ウェブサイト [www.tokyo-gengo.gr.jp/](http://www.tokyo-gengo.gr.jp/)

■理論言語学講座（後期）

理論言語学の広い領域について、入門から上級までの講座を開講

日程：9月27日（日）～12月8日（日）

■教師のためのことばセミナー

教師に限らず「ことばの教育」に関心のある方が対象です

※各日10～12 a.m.

（ディスカッションタイム含む）

10月17日（日）「ことばへの気づきと言語教育」

講師：大津由紀雄（慶應義塾大学名誉教授）

10月31日（日）「ことばへの気づきの対象」

講師：磯部美和（山梨大学）

11月14日（日）「ことばへの気づきの発達」

講師：五十嵐美加（東洋英和女学院大学）

11月28日（日）「ことばへの気づきを利用した授業案」

講師：向後朋美（十文字学園女子大学）

12月19日（日）「言語への目覚め活動」

講師：大山万容（立命館大学）

■公開講座

日程：2月19日（土）

講師：池上高志（東京大学／複雑系の科学、人工生命）

■集中講義

日程：3月12日（土）～13日（日）

講師：野矢茂樹（立正大学／言語哲学）

### ラボ日本語教育研修所

Facebook：<http://www.facebook.com/Labo.Japanese.Language.Institute>

■外国人のための日本語教育

日程：10月11日（日）～12月17日（金）

受講者：モンゴル、中国、ベトナム、韓国、アゼルバイジャン、バングラデシュ、シリアからの留学生

■日本語教師スキルアップ講座「中上級レベルの教え方（理論と実践）」

日本語教師として活躍中の方を対象とした、実践重視の教え方講座（オンラインで開催）

①10月15日（金）～12月3日（金）「テーマ：面接」  
※毎週金曜日（全8回）

②11月8日（日）～11月29日（日）「テーマ：文法」  
※毎週月曜日（全4回）

■地域の多文化共生の推進

「日本語ボランティア入門講座」

地域で活躍する日本語ボランティアの養成講座をラボ日本語教育研修所が担当

日程：未定（全5回）

場所：かわぐち市民パートナーズステーション（埼玉県川口市）の予定